講師紹介

増田　樹郎

それでは僭越ですが私の方で稲原美苗先生のご紹介をさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

先生のご経歴、そして沢山の著書・論文については本日の講演資料に一部記載されておりますので割愛をさせていただきます。ご容赦くださいますようお願いを致します。

始めに少しプライベートな事になりますけれども、先生を身近に感じましたのは愛知教育大学のおりの教え子がある時、大学院進学先として稲原先生のお名前を明かした時に、当時すでに当事者研究における新進気鋭の哲学者でおられたわけですけれども先生を身近に感じる機会となりました。

私は福祉原論の講義中に時折メルロポンティや臨床哲学を話題にしていましたけれども、教え子が研究の延長線上で稲原先生の造詣にあずかるとは私にとって思いがけない事でした。とはいえ大学院において教え子が先生のご享受を得た事で、どこか縁を頂いた気持ちになりまして機会があれば直接にお話をお伺いしたいと考えておりました。

昨年の学会では浜渦辰二先生にご講演をいただきましたけれども実は先生のご紹介は稲原先生からでした。この場を借りて改めて感謝を申し上げたいと思います。

さて本日の先生の講演資料につきましては皆様どの様に読み込んでこられたでしょうか？

当事者学つまり当事者と支援者の間を繋ぐ「知の構築」、先生はその様に表現されておりますけれども、この新たの知の構築という、その使命は作業所連合会の根底に流れる問題意識であると言っても過言ではありません。

時折私は障害者という言葉で、その実存を切り取る事に異議申し立てをしておりました。

病や障害という命の営みの中にある豊かなナラティブを聞く事に正に現場の成り立ち・在り方があると考えているからであります。

先生の御研究にその証を読み取る事が出来ると思っています。そのポイントは関係の学であり、間の哲学と言ってもいいのでしょう。

人は本来、共生の中にあるその現実・現時日に立って実存の意味、実践の意義を紐解く事が出来るかどうか、私共に課せられた共通のテーマでもあります。

本日お招きする事が出来まして、本当にこのご講演を楽しみにしておりました。稲原先生この後どうぞよろしくお願いいたします。

拙い紹介でございますけれども以上をもって先生の方にバトンタッチをしたいと思います。よろしくお願いいたします。